

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録
第3回 ソ連の宣戦布告と終戦

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録

第3回 ソ連の宣戦布告と終戦

ソ連宣戦布告侵攻開始

以下は、橋本先輩の資料からの直接の引用です。

昭和20年（1945年）8月9日、日ソ中立条約破棄

宣戦布告声明から10分後の深夜午前一時、ソ連軍侵攻の
火蓋は切られた。

その時、国境守備隊はどう戦ったか？

関東軍は戦う前から‘撃破’を放棄し、司令部を後方の鮮・満国境に
移していた。

ソ連宣戦布告侵攻開始

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録
第3回 ソ連の宣戦布告と終戦



午前1時侵攻開始、其の時国境守備隊はどう戦ったか？

百万同胞の悲劇が始まった

開拓団 在留邦人の運命は

関東軍司令部は後方 朝鮮・満州国境に移していた

8月15日天皇放送

降伏と停戦協定

「五族協和」の理念は音を立てて崩れ去った

こうして百万同胞の悲劇が始まった

昭和19年9月から、私は満州国とロシアと北朝鮮の三角地点の
国境守備隊に居た。

偉大なる先輩 ― 橋本清春氏の回想録
第3回 ソ連の宣戦布告と終戦

工兵隊として、橋を架け、船を運航し、陣地を構築する等の訓練もあったが、特に教育されたのは、ロシアの戦車が侵攻した場合、体に入るだけのタコ壺アナを掘り、1kgの火薬を抱いて、上に草をかけて潜み、ロシア戦車が来たら、飛び込んでキャタピラの下敷きになり、爆破する人間地雷となる訓練を受けた。

ロシアは昭和20年5月にドイツに勝ったのち、極東に軍事力を移動して、満州国の日本軍に対応する体制を整えた。

我が工兵隊は、ロシアが北朝鮮を経由しての侵攻に備え、第二戦線陣地をその方面の山中に要塞を昼夜作業で構築していた。

昭和20年8月9日、ロシア軍は各方面から満州の首都新京に向かって一斉に侵攻して来たが、我々の居場所は無視された状態となった。

「私の8月15日」

昭和20年8月15日の降伏の重大放送も知らずにいた。

8月18日頃、一緒に居た朝鮮の兵が、近くの朝鮮部落から、日本は連合国に無条件降伏したとの情報を得た。

隊長が日本国旗を焼いた。

この日を境に、極寒の地シベリアにおいて長期間にわたって劣悪な環境の下で、強制労働に従事し多大の苦難を強いられたのである。

今回は、以上です。

しかし、内容は想像を絶するようなことですね。

つづき。